

# 平成 26 年度事業報告

自 平成 26 年 7 月 1 日

至 平成 27 年 6 月 30 日

昨年は、平成 26 年 8 月 6 日に法務局に一般社団法人として登記され、非営利型一般社団法人としての活動を開始した。旧任意団体の資産と事業はそのまま新団体に移行した。

以下、旧団体と新団体を併せた 1 年間の活動報告を記す。

会員数は、正会員、学会員、海外会員それぞれ入退会による増減があり、全体的には 5 機関(名)の増加であった。正会員は 5 機関減少した。総会、理事会、幹事会、研究会(講演会・見学会)、講習会・セミナー、シンポジウム、海外調査、各種広報出版などの定常的な事業活動は、予定通り実施された。平成 26 年度については、収入は 59 万余円予算額を上回った。支出については各種項目について吟味を行い有効活用に努めたが新聞情報量増大に伴う支出増等などにより、138 万余円予算額より上回った。その結果、平成 26 年度の収支差額は 67 万余円の赤字となった。翌年度繰越正味財産は 5,345 万余円となった。

以下に平成 26 年度の各活動の概要を報告する。

## I 会員数

	平成 25 年度末 (平成 26 年 6 月 30 日現在)	年間の増減			平成 26 年度末 (平成 27 年 6 月 30 日現在)
		入会	退会	増減差	
正会員	122(120)	5	10	-5	117(115)
公共会員					0
学会員	71	7	2	5	76
海外会員	6	5	0	5	11
特別会員	6	0	0	0	6
合計	205(203)	17	12	5	210(208)

注 1) カッコ内は会費を納めている会員数。相互に団体加入あるいは相互に情報交換等の契約で、正会員 2 機関が会費免除。

注 2) 海外会員の会員期間は毎年 1 月～12 月。

## II 活動状況

### 1 開催行事

#### 1.1 研究会の開催

下記 2 回の講演会、2 回の見学会を実施した。

- 第 132 回研究会(平成 26 年 7 月 23 日)講演会「分散型エネルギーとしての燃料電池の可能性」  
「埼玉県の水素エネルギー施策について」
- 第 133 回研究会(平成 26 年 10 月 17 日)(一財)日本自動車研究所 城里テストセンターを見学。参加人数 20 名
- 第 134 回研究会(平成 27 年 1 月 21 日)講演会「エネファームの本格普及と水素社会実現に向けた取り組み」「先端技術開発にオープン&クローズの戦略思想を必要とする時代の登

## 第1号議案

場」。参加人数 65 名

- 第 135 回研究会(平成 27 年 4 月 6 日) 住友電工レドックスフロー電池 実証施設見学。参加人数 20 名

### 1.2 セミナー・講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

- 第 28 回燃料電池セミナー(平成 26 年 9 月 19 日)を「FCV フォーラム II」((地独)東京都立産業技術研究センター共催)として実施。参加人数 186 名
- 第 20 回寺子屋式講習会(平成 26 年 12 月 12 日)実施。I 部基礎編、II 部燃料電池組立体験、III 部応用編の構成で実施。参加人数 32 名
- 第 10 回ミニ勉強会(平成 27 年 3 月 19 日)を「未来自動車」をテーマに話題提供(講師、パネルディスカッション、参加者との意見交換という形式で実施。参加人数 18 名
- 第 11 回ミニ勉強会(平成 27 年 6 月 26 日)を「水素エネルギー」をテーマに話題提供(講師、パネルディスカッション、参加者との意見交換という形式で実施。参加人数 20 名

### 1.3 燃料電池シンポジウムの開催

FCDIC 主催の第 22 回燃料電池シンポジウムを平成 27 年 5 月 28 日、29 日にタワーホール船堀で開催した。参加者 556 名であった。一般講演は 62 件(オーラル発表 43 件、ポスター発表 19 件)であった。また本年度も学生を対象とした優秀ポスター賞を設け 2 件が受賞した。展示会の出展社数は 28 機関であった。特別講演としては、内閣府の中島英彰氏による「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)・エネルギーキャリアの取組について」および本田技術研究所の守谷隆史氏による「Honda の燃料電池自動車開発と水素社会に向けて」の 2 件が行われた。また、特別依頼講演として、KIER (Korea Institute of Energy Research) の Jung 氏による「R&D status of fuel cell in Korea」、および HySUT の山梨文徳氏による「海外水素ステーション動向」が行われた。その他、HESS とのジョイントセッションでは、東京理科大学の橘川武郎氏による基調講演、「水素社会と日本のエネルギー構造の転換」を、特別依頼講演として、岩谷産業の宮崎淳氏による「水素インフラ整備の展望」、JARI の田村陽介氏による「水素・燃料電池自動車の安全性に関する JARI の活動紹介」、川崎重工業の老松和俊氏による「水素エネルギーサプライチェーン実現への取り組み」、依頼講演として、東芝の亀田常治氏による「再生可能エネルギーを活用する水素製造・電力貯蔵システム」、本田技術研究所の岡部昌規氏による「ホンダにおけるスマート水素ステーションの取組み」が行われた。ジョイントセッションの最後には講師・座長等によるパネルディスカッションが設けられた。なお、展示会場では一般展示の他に自治体コーナーが設けられた。FC 懇談会との共催による燃料電池組立・体験コーナーが行われた。

### 1.4 懇親会、賀詞交歓会の開催

平成 26 年 7 月 23 日の総会時に懇親会、平成 27 年 1 月 21 日に賀詞交歓会を開催し、会員相互の懇親、情報交換を図った。

# 第1号議案

## 2 広報・出版

### 2.1 機関誌「燃料電池」の発行

機関誌「燃料電池」を季毎に4回発行して配布し、その時々々の燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。

- 「燃料電池」夏号 vol.14 No.1, 2014 特集「燃料電池を支える水素供給Ⅰ」93頁
- 「燃料電池」秋号 vol.14 No.2, 2014 特集「燃料電池を支える水素供給Ⅱ」100頁
- 「燃料電池」冬号 vol.14 No.3, 2015 特集「業務用燃料電池」91頁
- 「燃料電池」春号 vol.14 No.4, 2015 特集「いよいよ市販された燃料電池自動車」98頁

### 2.2 「The Latest News」の発行

新聞に掲載された燃料電池の最新ニュースを日本語と英語で FCDIC のホームページに掲載し（平成27年6月で233号を数える）、国内外に広く日本の燃料電池開発状況を発信した。

### 2.3 年報の発行

2014年度版年報「日本における燃料電池の開発」(279頁)を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は国家プロジェクトの概要、各業界の開発概要、各企業・機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDIC 会員名簿、国際標準化、統計等の資料編から構成した。なお、会員名簿を含まない外販版の発行を始めた。

### 2.4 FCDIC ホームページ

燃料電池に関連する写真、燃料電池シンポジウム・セミナー、機関誌、Latest News、研究会、関連情報、FCDIC 各委員会、関連データ、ウェブ情報などの項目毎に分割した。

### 2.5 展示会出展

FC EXPO 2015 でブースにて展示を行い、FCDIC の活動を広く一般に広報した。

## 3 海外調査

- 2014 Asian SOFC Symposium (平成26年9月21日～24日、韓国 釜山) に参加した。参加報告は機関誌 Vol.14、冬号に掲載された。
- 2014 Fuel Cell Seminar & Exposition (平成26年11月10日～11月13日、米国 ロサンゼルス) に参加した。

## 4 国際協力

- 2014 Fuel Cell Seminar & Exposition に参加し、Session の座長を務めた。また日本の窓口として、発表者、参加者からの相談に対応した。2015 Fuel Cell Seminar & Exposition の組織委員会委員として、論文審査、プログラム作成、受賞者審議等に参加した。

## 第1号議案

### 5 共催・協賛・後援

以下に承認した共催・協賛・後援行事を列挙する。

#### ■共催

##### 第7回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー

共催：触媒学会燃料電池関連触媒研究会、FC懇談会

開催日：平成26年10月24日～25日

場所：加藤科学振興会 軽井沢研修所

テーマ「－触媒技術を持ち寄って新しい一歩を踏み出そう－」

参加者数：49名

##### 第3回国際交流会(The 3<sup>rd</sup> International FC Meeting)

共催：FC懇談会

開催日：平成27年2月23日

場所：東京理科大学森戸記念館

構成：Posco Energy, NEDO, Industry Catalyst Laboratory, Advance Riko,  
Asahi Glass, Toshiba Fuel Cell Power Systems, Delta-EE

参加者数：26名

##### FC Expo 2015

共催：リード エグジビション ジャパン(株)、(一社)水素エネルギー協会 (HESS)

開催日：平成27年2月25日～27日

場所：東京ビッグサイト

#### ■協賛

##### 第27回秋季シンポジウム (ポスター賞)

主催：公益社団法人日本セラミックス協会

開催日：2014年9月9日(火)～11日(木)

場所：鹿児島大学 郡元キャンパス

##### No.14-113 講習会[見学会付] 水素の輸送・貯蔵・利用技術

－「大規模水素貯蔵・輸送システム」実証プラントの見学－

主催：一般社団法人日本機械学会

開催日：2014年10月21日(火)

場所：千代田化工建設(株)子安リサーチパーク

##### 第31回ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2014

主催：日本膜学会 一般社団法人日本能率協会

開催日：2014年11月18日(火)～21日(金)

場所：東京港区 三田NNホール (三田NNビル 地下1階)

##### 第34回水素エネルギー協会大会

主催：一般社団法人水素エネルギー協会

開催日：2014年11月25日(水)～11月26日(水)

場所：東京大学生産技術研究所 コンベンションホール

## 第1号議案

### 第10回新エネルギー技術シンポジウム

主催：独立行政法人産業技術総合研究所 エネルギー技術研究部門  
筑波大学 大学院 システム情報工学研究科  
一般社団法人電気学会

開催日：2014年11月27日（木）～28日（金）

場所：独立行政法人産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所  
燃料電池・FCH 部会 公開シンポジウム

「燃料電池市場投入に向けて一期待、課題、挑戦」

主催：一般財団法人大阪科学技術センター 燃料電池・FCH 部会

開催日：2014年12月11日（木）

場所：大阪科学技術センター 4階 401 会議室

### 第10回再生可能エネルギー世界展示会

主催：再生可能エネルギー協議会

開催日：2015年7月29日（水）～31日（金）

場所：東京ビッグサイト

### The 4th International Conference on Microgeneration and Related Technologies (Microgen IV)

主催：国際会議 Microgen IV実行委員会

開催日：2015年10月28日（水）～30日（金）

場所：東京大学伊藤国際学術研究センター

### 第56回電池討論会

主催：公益社団法人電気化学会 電池技術委員会

開催日：2015年11月11日（水）～13日（金）

場所：愛知県産業労働センター WINC AICHI

### ■後援

#### 平成26年度福岡水素エネルギー人材育成センター

主催：福岡水素エネルギー戦略会議

開催日：2014年6月24日（火）（経営者（燃料電池自動車）コース）

2014年9月（経営者コース）

2014年10月、11月 各3日間（技術者育成コース）

場所：福岡市内（技術者育成コース）

九州大学伊都キャンパス（経営者コース、技術者コース、技術者育成コース）

水素エネルギー製品研究試験センター（経営者（燃料電池自動車）コース、

技術者育成コース）

#### 再生可能エネルギー先端技術展 2014

主催：福岡県、北九州市、経済産業省 九州経済産業局、  
公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

開催日：2014年10月8日（水）～10月10日（金）

場所：西日本総合展示場 本館

#### 水素先端世界フォーラム 2015

## 第1号議案

主催：福岡水素エネルギー戦略会議、福岡県、国立大学法人九州大学

開催日：2015年2月3日（火）～4日（水）

場所：九州大学伊都キャンパス 椎木講堂

### 第7回 国際燃料電池ワークショップ 2015

主催：山梨大学

開催日：2015年8月27日（木）～28日（金）

場所：甲府富士屋ホテル

### エコテクノ 2015～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～

主催：福岡県、北九州市、経済産業省 九州経済産業局、

公益財団法人西日本産業貿易コンベンション協会

開催日：2015年10月7日（水）～9日（金）

場所：西日本総合展示場 新館/本館

#### ▪協力

### Solid State Protonic Conductors-17 国際学術大会

主催：SSPC-17 運営委員会

開催日：2014年9月14日（日）～9月19日（金）

場所：KIST（韓国科学技術研究院），ソウル（Seoul），韓国

## III 決算の概要

昨年の総会において法人化の議決がなされ、その結果を踏まえて定款認証および法務局への登録申請を行った。任意団体の資産及び事業はそのまま新団体（非営利型一般社団法人）に移行した。

以下、旧任意団体とそれを引き継いだ新団体を合わせた決算について説明する。

予算収入は燃料電池への関心の高まりを予想し、前年度より64万円程度多目とした。一方、支出額については、全体的に削減を図ることで、前年実績に対して100万円弱減じ、支出差額10万余円の黒字となる予算を組んだ。結果としては、収入は予算に対して59万円多目となった。一方、支出は諸費の削減に努力したものの、FCVの一般販売に関する情報増大や法人化に関わる経費増もあり、対予算で138万円強多目となった。結果として、決算は67万余円の赤字となった。

以下、内容を説明する。

まず、収入について、正会員数増は予測より少なかったが、シンポジウム等の事業収入や共催協力金が多目となったことなどのため、本年度収入合計は昨年度実績より123万余円増の、4,168万余円の収入となった。

一方、支出については、水素エネルギー、燃料電池実用化に向けての関心の高まりや情報量の増加もあり、事務局の業務量が増加したこと、懇親会への参加者増加などにより経費が増大した。なお、事務局職員の交替、派遣から直雇いへの変更等もあり、給料手当は予算より多目となった。その他の経費は全体的に節約を図ったが、昨年度実績に対して、39万余円多目の4,235万余円の支出となり、今年度収入を67万余円上回った。

以上の結果、翌年度繰越正味財産は5,345万円余となった。

平成26年度決算案を別紙に示す。

# 平成26年度決算報告書

自 平成 26年8月 6日  
至 平成 27年6月30日

## 正味財産増減計算書

一般社団法人 燃料電池開発情報センター (単位 円)

項 目	H26年度予算額	決算額	備 考
正味財産増減の部			
収益			
1. 会費	2,760,000	2,760,000	
(1)正会員会費	2,120,000	2,080,000	会員数117
(2)公共会員会費	200,000	0	
(3)海外会員会費	280,000	520,000	会員数11 (4th Energy Wave H24.H25年会費を含む)
(4)学術会員会費	160,000	160,000	会員数76
2. シンポジウム参加費	6,700,000	7,547,212	懇親会費、展示会出展費を含む
3. 講習会参加費	1,700,000	2,110,000	FCVフォーラム、寺子屋、ミニ勉強会
4. 資料頒布	290,000	71,980	シンポジウム予稿集 講習会テキスト等
5. 機関誌頒布	2,160,000	1,903,775	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	1,400,000	1,785,926	預金利子、共催協力金等
本年度収益計(A)	15,010,000	16,178,893	
7. 受贈益	76,913,835	76,913,835	任意団体より資産の引継ぎ (財産目録に拠る)
本年度正味財産額(B)	91,923,835	93,092,728	

項目	H26年度予算額	決算額	備考
<b>費用</b>			
1. 会議・会場費	4,950,000	5,168,950	研究会・講習会・シンポ・委員会会場費、海外学会・会議参加費他
2. 印刷製本代	5,900,000	5,985,936	機関誌、年報、予稿集、報告書他
3. 渉外費	2,400,000	2,943,588	賀詞交歓会費、総会・シンポジウム懇親会費
4. 旅費交通費	1,263,000	1,307,902	委員会委員旅費、情報調査旅費、学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	3,580,000	3,649,605	Latest News執筆・翻訳、人材派遣、ホームページ更新他
6. 諸謝金	2,150,000	1,702,917	機関誌・講習会・報告書原稿料、講習会講師謝礼、税理士謝礼
7. 諸会費	480,000	354,740	国内学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	550,000	1,087,258	ELNET、日経、他
9. 事務用品費	460,000	215,702	複写代、パソコン部品他
10. 消耗品費	130,000	84,822	一般事務用品
11. 通信運搬費	880,000	831,821	郵送代、電話料、Web管理費、メールボックス使用料他
12. 支払手数料	210,000	137,900	送金手数料他
13. 給料手当	9,850,000	10,664,692	職員5名給与
14. 賞与	0	0	
15. 臨時賃金	300,000	288,629	アルバイト雇用代
16. 法定福利費	300,000	292,570	社会保険料
17. 公租公課	130,000	162,757	消費税、地方税
18. 福利厚生費	100,000	76,551	健康診断補助他
19. 借室費	2,849,000	2,845,876	家賃
20. 光熱費	325,000	314,852	水道光熱費
21. リース費	688,000	765,150	複写機、セキュリティサーバー他
22. 賃借料	100,000	63,319	プロジェクター料、バスチャーター費
23. 事務所整備費	200,000	198,522	机購入、パソコン購入他
24.退職金	0	0	退職慰労金
25. 雑費	450,000	448,681	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
26. 予備費	100,000	0	
本年度費用計(C)	38,345,000	39,592,740	
27. 受贈損	48,095	48,095	任意団体より負債の引継ぎ(財産目録に拠る)
本年度正味財産額(D)	38,393,095	39,640,835	
本年度正味財産増減額(B)-(D) 翌年度繰越正味財産期末残高	53,530,740	53,451,893	



# 貸借対照表

平成 27年6月30日現在

一般社団法人 燃料電池開発情報センター (単位 円)

資産の部		負債および正味財産の部	
項目	金額	項目	金額
<b>【流動資産】</b>	<b>53,611,213</b>	<b>【流動負債】</b>	<b>2,375,320</b>
現金	187,316	前受金	712,000
普通預金	23,234,577	源泉税預り金	156,676
定期預金	30,000,000	未払金	1,506,644
未収入金	189,320		
<b>【固定資産】</b>	<b>2,216,000</b>	<b>【正味財産】</b>	<b>53,451,893</b>
敷金	2,000,000	(内当期正味財産増加額)	53,451,893
電話加入権	216,000		
<b>合計</b>	<b>55,827,213</b>	<b>合計</b>	<b>55,827,213</b>

# 財産目録

平成 27年6月30日現在

一般社団法人 燃料電池開発情報センター (単位:円)

項 目	金 額	備 考
<b>資産の部</b>		
【流動資産】		
現金	187,316	(手元現金)
預 金	53,234,577	
(内 訳)		
みずほ銀行 神田支店	1,458,082	普通 主預金通帳
同 上	15,064,156	普通 燃料電池シンポジウム用通帳
同 上	4,047,410	普通 燃料電池講習会用通帳
同 上	10,000,000	定期 定期預金
三井住友銀行 神田支店	2,664,929	普通 会費振込用通帳
同 上	10,000,000	定期 定期預金
りそな銀行 神田支店	10,000,000	定期 定期預金
未収入金	189,320	シンポジウム参加費、シンポジウム予稿集広告費他
【固定資産】		
敷 金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話 03-6206-0231 ファクシミリ 03-6206-0232
合 計	55,827,213	
<b>負債の部</b>		
前受金	712,000	27年度会費前受金
源泉税預り金	156,676	源泉所得税預り金
未払金	1,506,644	シンポジウム展示費等
合 計	2,375,320	
差引正味財産	53,451,893	

## 平成26年度決算報告書

自 平成 26年7月 1日

至 平成 27年6月30日

## 正味財産増減計算書

燃料電池開発情報センター  
一般社団法人 燃料電池開発情報センター (単位 円)

項 目	H26年度予算額	決算額	備 考
正味財産増減の部			
収益			
1. 会費	28,792,000	28,168,000	
(1)正会員会費	27,720,000	27,040,000	会員数117
(2)公共会員会費	200,000	0	
(3)海外会員会費	280,000	520,000	会員数11 (4th Energy Wave H24.H25年会費を含む)
(4)学術会員会費	592,000	608,000	会員数76
2. シンポジウム参加費	6,700,000	7,586,812	懇親会費、展示会出展費を含む
3. 講習会参加費	1,700,000	2,113,000	FCVフォーラム、寺子屋、ミニ勉強会
4. 資料頒布	300,000	86,020	シンポジウム予稿集 講習会テキスト等
5. 機関誌頒布	2,200,000	1,945,463	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	1,400,000	1,785,926	預金利子、共催協力金等
本年度収益計(A)	41,092,000	41,685,221	

燃料電池開発情報センター  
 一般社団法人 燃料電池開発情報センター (単位 円)

項 目	H26年度予算額	決算額	備 考
<b>費用</b>			
1. 会議・会場費	5,000,000	5,224,177	研究会・講習会・シホ・委員会会場費、 海外学会・会議参加費他
2. 印刷製本代	6,000,000	5,985,936	機関誌、年報、予稿集、報告書他
3. 渉外費	2,400,000	2,943,588	賀詞交歓会費、総会・シホ・ソウム懇親会費
4. 旅費交通費	1,400,000	1,443,662	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	4,000,000	4,101,262	Latest News執筆・翻訳、人材派遣、 ホームページ更新他
6. 諸謝金	2,400,000	2,097,296	機関誌・講習会・報告書原稿料、 講習会講師謝礼、税理士謝礼
7. 諸会費	500,000	380,740	国内学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	600,000	1,150,372	ELNET、日経、他
9. 事務用品費	500,000	267,836	複写代、パソコン部品他
10. 消耗品費	150,000	91,566	一般事務用品
11. 通信運搬費	940,000	921,125	郵送代、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	230,000	201,576	送金手数料他
13. 給料手当	10,500,000	11,322,867	職員5名給与
14. 賞与	0	0	
15. 臨時賃金	310,000	293,629	アルバイト雇用代
16. 法定福利費	420,000	404,971	社会保険料
17. 公租公課	130,000	163,657	消費税、地方税
18. 福利厚生費	100,000	78,464	健康診断補助他
19. 借室費	3,340,000	3,338,622	家賃
20. 光熱費	350,000	338,260	水道光熱費
21. リース費	750,000	833,820	複写機、セキュリティーサーバー他
22. 賃借料	100,000	63,319	プロジェクター料、バスチャーター費
23. 事務所整備費	200,000	198,522	机購入、パソコン購入他
24.退職金	50,000	50,000	退職慰労金
25. 雑費	500,000	460,777	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
26. 予備費	100,000	0	
本年度費用計(B)	40,970,000	42,356,044	
本年度正味財産増減額(A)-(B)	122,000	△ 670,823	
前年度正味財産額(C)	54,122,716	54,122,716	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)-(B)+(C)	54,244,716	53,451,893	

# 財産目録

平成 26年8月5日現在

燃料電池開発情報センター (単位:円)

項 目	金 額	備 考
<b>資産の部</b>		
【流動資産】		
現金	295,900	(手元現金)
普通預金		
預 金	74,401,935	
(内 訳)		
みずほ銀行 神田支店	17,783,575	普通 主預金通帳
同 上	9,859,487	普通 燃料電池シンポジウム用通帳
同 上	3,204,130	普通 燃料電池講習会用通帳
同 上	10,000,000	定期 定期預金
三井住友銀行 神田支店	12,517,043	普通 会費振込用通帳
同 上	10,000,000	定期 定期預金
りそな銀行 神田支店	10,000,000	定期 定期預金
ゆうちょ銀行 神田淡路町店	1,037,700	振替口座 燃料電池シンポジウム用
【固定資産】		
敷 金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話 03-6206-0231 ファクシミリ 03-6206-0232
合 計	76,913,835	
<b>負債の部</b>		
源泉税預り金	48,095	源泉所得税預り金
合 計	48,095	
差引正味財産	76,865,740	

# 平成 27 年度事業計画 (案)

自 平成 27 年 7 月 1 日

至 平成 28 年 6 月 30 日

昨年は水素が将来のエネルギーの柱となることが閣議決定されるとともに、NEDO からは水素エネルギー白書が発表された。また、2009 年に販売が開始された ENE・FARM は摺長に出荷台数が伸び、既に累積 12 万 5 千台を超えた。また、昨年 12 月には FCV の一般販売が開始され、注引量は予測の 3 倍程度との報道が為されている。このように水素・燃料電池への関心と期待が高まる中、新会員の加入はあるものの、一方では、事業化見極めの結果退会に至る会員もあり、会員数はほぼ一定状態だが、正会員数は減少の方向にある。法人化は新しい会員を増やすことへの効果も期待して行ったことでもあり、来年度が設立 30 周年を迎えることと合わせて、今年度はあらためて会員数維持乃至は増大に向けての議論と対策が必要になっていると言える。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

## I 活動計画

### 1 開催行事

#### 1.1 総会・懇親会、賀詞交歓会

平成 27 年度総会を平成 27 年 7 月 22 日、賀詞交歓会を平成 28 年 1 月に開催する。総会時には懇親会を催し、賀詞交歓会と共に会員相互の親睦を図る場とする。

#### 1.2 第 23 回燃料電池シンポジウム

平成 28 年 5 月 26 日、27 日に開催の予定である。第 22 回に開始した他学協会との共催によるジョイントセッションは継続して行い、参加者数とともに分野の拡大を狙う。

#### 1.3 研究会

講演会を年 2 回、見学会を年 2 回程度予定している。講演テーマ、見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ、企画委員会にて検討していく。

#### 1.4 セミナー・講習会

セミナーとしては、「FCV フォーラムⅢ」を来年の 4 月に開催すべく調整中である。一方、初心者向け講習会(寺子屋式講習会)についても、基礎と応用に分けた構成として実施していく。ミニ勉強会は企画委員会メンバーを中心に 3 回程度の開催を予定している。

## 2 広報・出版

### 2.1 機関誌「燃料電池」の発行

燃料電池に特化した学術雑誌(年 4 回発行)として、内外の動向に応える内容で発行を継続する。

### 2.2 2014 年度版年報「日本における燃料電池の開発」の発行

日本における燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約して発行する。外販版の発行を継続する。

## 第2号議案

### 2.3 「The Latest News」のホームページ掲載

新聞に掲載された燃料電池関係のニュースを FCDIC のウェブサイトに掲載する。また、英語版については海外会員等に E メールで届けると共に、FCDIC のウェブサイトにも掲載する。

### 2.4 ウェブサイトの充実

ウェブ情報等、タイムリーな情報発信の方法として今年度も見直しを継続する。燃料電池に関係する催しなどの情報も会員の要望に応じ、積極的に掲載していく。

## 3 海外調査

平成 27 年 11 月 16 日～19 日、米国カリフォルニア州で開催の 2015 Fuel Cell Seminar Energy & Exposition 等の国際会議に出席し、燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

## 4 国際協力

2015 Fuel Cell Seminar & Exposition の開催に日本の窓口として協力する。また応募発表論文の審査、プログラムの編成や会議においては座長等として運営に協力する。

標準化活動に協力し、ウェブサイト等に動向を報告する。

## 5 共催・協賛・後援

平成 27 年 10 月 23 日～24 日に触媒学会燃料電池関連触媒研究会及び FC 懇談会と共催で、第 8 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナーを開催する。

平成 28 年 2 月 29 日に FC 懇談会と共催で、第 4 回国際交流会を開催する。

平成 28 年 3 月 2 日～4 日、東京で開催の第 12 回国際水素・燃料電池展(FC EXPO 2016)に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいて FCDIC の活動を展示し、広報する。その他の共催・協賛・後援についても、幹事会の承認を得て、積極的に引き受ける。

## 6 その他

平成 28 年 7 月に FCDIC は設立 30 周年を迎える。記念事業の実施等についての検討を開始する。

## II 予算の概要

ENE・FARM、FCV の市販など燃料電池技術については日本が先端を走る時代となっている。新規参入、事業可能性への見極めによる退会、海外会員増はそれらを或る程度は反映していると思われる。

収入に関しては、これらの動向を織り込んで、正会員等各種会員の途中入会やシンポジウムへの参加者の増加を期待して収入予算を積み上げ、4,266 万円の収入予算を組んだ。

一方、支出については積極的な活動は確保しながらも、全体的に予算削減に努める方針の下に、昨年度実績をベースに積み上げることで、総額 4,252 万余円とした。

以上、収入および支出計上の結果、平成 27 年度予算の収支差額は 13 万余円の収入を見込むこととする。

平成 27 年度予算案を別紙に示す。

# 平成27年度予算案

自 平成 27年7月 1日  
至 平成 28年6月30日

## 収支予算書

(単位 円)

項 目	H27年度予算額	H26年度決算額	備 考
収入			
1. 会費	28,244,000	28,168,000	
(1)正会員会費	26,980,000	27,040,000	会員数112(110社分会費)+途中入会
(2)公共会員会費	120,000	0	会員数1
(3)海外会員会費	520,000	520,000	会員数11+途中入会
(4)学会会員会費	624,000	608,000	会員数74+途中入会
2. シンポジウム参加費	7,700,000	7,586,812	懇親会費、展示会出展費を含む
3. 講習会参加費	2,540,000	2,113,000	FCVフォーラム、寺子屋、ミニ勉強会
4. 資料頒布	150,000	86,020	シンポジウム予稿集 講習会テキスト等
5. 機関誌頒布	2,400,000	1,945,463	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	1,626,000	1,785,926	預金利子、共催協力金等
本年度収入合計(A)	42,660,000	41,685,221	



(単位:円)

項 目	H27年度予算額	H26年度決算額	備 考
支出			
1. 会議・会場費	5,830,000	5,224,177	研究会・講習会・シンポ・委員会会場費、海外学会・会議参加費他
2. 印刷製本代	5,960,000	5,985,936	機関誌、年報、予稿集、報告書他
3. 渉外費	2,460,000	2,943,588	賀詞交歓会費、総会・シンポジウム懇親会費
4. 旅費交通費	1,530,000	1,443,662	委員会委員旅費、情報調査旅費、学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	3,000,000	4,101,262	Latest News執筆・翻訳、人材派遣、ホームページ更新他
6. 諸謝金	2,500,000	2,097,296	機関誌・講習会・報告書原稿料、講習会講師謝礼、税理士謝礼
7. 諸会費	500,000	380,740	国内学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	600,000	1,150,372	ELNET、日経、他
9. 事務用品費	300,000	267,836	複写代、パソコン部品他
10. 消耗品費	150,000	91,566	一般事務用品
11. 通信運搬費	1,000,000	921,125	郵送料、電話料、Web管理費、メールボックス使用料他
12. 支払手数料	230,000	201,576	送金手数料他
13. 給料手当	11,850,000	11,322,867	職員5名給与
14. 賞与	0	0	
15. 臨時賃金	310,000	293,629	アルバイト雇用代
16. 法定福利費	840,000	404,971	社会保険料
17. 公租公課	130,000	163,657	消費税、地方税
18. 福利厚生費	90,000	78,464	健康診断補助他
19. 借室費	3,108,000	3,338,622	家賃
20. 光熱費	350,000	338,260	水道光熱費
21. リース費	840,000	833,820	複写機、セキュリティーサーバー他
22. 賃借料	100,000	63,319	プロジェクター料、バスチャーター費
23. 事務所整備費	200,000	198,522	什器備品、パソコン購入他
24.退職金	50,000	50,000	退職慰労金
25. 雑費	500,000	460,777	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
26. 予備費	100,000	0	
本年度支出合計(B)	42,528,000	42,356,044	
本年度収支差額(A)-(B)	132,000	△ 670,823	
前年度繰越収支額(C)	53,451,893	54,122,716	
翌年度繰越収支差額 (A)-(B)+(C)	53,583,893	53,451,893	

## 第3号議案

### 平成27年度 役員・顧問 (案)

#### I 役員

##### <代表・副代表>

横浜国立大学	太田 健一郎 [代表] (名誉教授 特任教授 (大学院工学研究院 グリーン水素研究センター))
東芝燃料電池システム (株)	住吉 幸博 [副代表] (代表取締役社長)
(一社) 日本ガス協会	富田 鏡二 [副代表] (常務理事 副事務局長)
JX 日鉱日石エネルギー (株)	五十嵐 仁一 [副代表] (常務執行役員 中央技術研究所長)

##### <常任理事>

(一社) 燃料電池開発情報センター	吉武 優 [常任理事]
-------------------	-------------

##### <理事>

大阪ガス (株)	田畑 健 [理事] (リビング事業部 商品技術開発部 部長)
(国研) 産業技術総合研究所	長谷川 裕夫 [理事] (関西センター 所長)
JX 日鉱日石エネルギー (株)	<b>新</b> 中村 勉 [理事] (中央技術研究所 水素基盤研究所 所長)
(一財) 電力中央研究所	渡辺 隆夫 [理事] (エネルギー技術研究所 研究参事)
東京ガス (株)	<b>新</b> 菱沼 祐一 [理事] (燃料電池事業推進部 部長)
トヨタ自動車 (株)	小島 康一 [理事] (F C技術領域F C技術・開発部主査 (F C開発))

## 第3号議案

長岡技術科学大学	梅田 実	[理事]
	(教授 (工学部 物質・材料系))	
パナソニック (株)	小原 英夫	[理事]
	(先端研究本部 環境・エネルギー研究室 室長)	
(株) 本田技術研究所	守谷 隆史	[理事]
	(四輪 R&D センター 第5技術開発室 上席研究員)	
三菱日立パワーシステムズ (株)	新 北川 雄一郎	[理事]
	(燃料電池事業室長 新製品 SBU 長)	

### <監事>

横浜国立大学	神谷 信行	[監事]
	(スーパーバイザー (理工学部 化学教室))	
豊橋技術科学大学	新 恩田 和夫	[監事]
	(名誉教授 客員教授 (電気・電子情報工学系))	

### II 顧問

(一社) 燃料電池開発情報センター	片岡 宏文	[顧問]
(一社) 燃料電池開発情報センター	本間 琢也	[顧問]
(一社) 燃料電池開発情報センター	小関 和雄	[顧問]